序　章

和歌山県立医科大学は、第二次世界大戦末期の国家的要請と山村、漁村が多く医師、医療機関不足であった和歌山県民の強い要望のもと、昭和20年2月設置認可の和歌山県立医学専門学校を基盤として、昭和22年6月に和歌山県立医科大学予科が設置されたことに始まる。

昭和23年2月20日に和歌山県立医科大学として認可され、昭和27年2月20日学制改革による新制度の医科大学として認められた。

その後、大学院、付置研究所などを逐次設置し、医育および研究機関としての充実をはかり、今日では和歌山県の医学医療の中核として県民から厚い信頼を得ている。

本学の使命である、有能な医師の育成、医学医療の研究開発、和歌山県の保健医療の充実発展への寄与を果たすために、将来の医学の進展に対応できる施設設備の整備が必要であることから、統合移転による整備が計画され、風光明媚な和歌の浦を望む紀三井寺の地に移転することとなり、平成11年5月の附属病院の移転をもって統合移転が完了した。

このことにより、本学は、近代的な建物施設と最新の設備を整え、教育、研究、診療の諸施設を有機的に統合し、情報通信システムを整備して、医師の育成と医学の研究はもとより、県民の保健医療の中核施設にふさわしい機能設備を整えることとなった。

引き続き、将来の医学の進展に対応できる大学としてさらに整備を図っており、新たな施設や部門も設置し、21世紀を担いうる教育研究機関、地域の医学医療センターをめざしている。

付置施設の先端医学研究所は、講座の枠を超えた横断的研究、学外との共同研究を推進している。

また、生涯研修・地域医療センターは、医師だけでなく全ての保健医療関係者の生涯学習、地域の関連機関連携の拠点として活用が図られている。

このように、本学は、これまでに培ってきた地域との強い連携を生かし地域に開かれた大学として、地域性と普遍性を追求し、学内の教育、研究組織を横断的に統合して組織力を高め、地域から、世界に貢献できる人材を育成し、研究成果を世界にも発信し、人類の健康福祉の向上に貢献する大学を目標に活動しており、地域の期待に応えている。